



兵役拒否・徴兵忌避をテーマに平和研究

いちかわ

法学部 法学科

教授

市川 ひろみ

兵役拒否について、国際比較・ジェンダー視点から考察
平和研究ゼミで、学生と平和に向けた活動に取り組む

コメントできる
研究領域

平和研究

兵役拒否

マイノリティー

性暴力

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、政治学の分野で、国際関係論や平和研究を専門とする法学科の市川ひろみ教授の最新の知見と取り組みをご紹介します。

■ウクライナ情勢から考える兵役拒否。「非人道的な命令」にノーと言える権利の重要性

ロシアによるウクライナへの全面侵攻から4年が経過し、深刻化する兵士不足の裏で、2026年1月にはウクライナ国防相が「脱走兵が推定20万人、徴兵逃れの疑いが約200万人」に上ると報告しています。市川教授は、国民の生命と自由を保障する国家が武力を強制することの矛盾を指摘し、軍人であっても「不正な戦闘に関わりたくない」という内面の自由（良心の自由）は守られるべきだと主張します。例えばもし非人道的な命令が下された際、兵士が処罰されずに「ノー」と言える権利がなければ、違法なあるいは非人道的な行為が肯定されてしまいます。ドイツ連邦軍では、過去の歴史への反省から「無批判な服従」を否定する「共に考えてなす服従」の理念が掲げられています。現実の軍隊組織における運用の難しさや課題は常に指摘されるものの、兵士個人の良心を守る視点は組織の暴走を防ぐ上でも極めて重要な理念です。また兵役拒否を一人の個人による一時の決断ではなく「その後の人生を左右するもの」として捉え、家族や社会の観点から立体的に研究を進めています。

■「男は国を守るもの」という固定観念。ジェンダー視点から問い直す社会構造

8月15日を前に戦争の記憶が語られる際、私情を抑えて義務を全うした学徒兵などは称えられがちです。しかし、日本でも戦中「殺したくない」「家族を支えたい」と徴兵を忌避し、厳しい目を向けられた人々がいました。市川教授は、彼らもまた「命の尊厳や家族を守ろうとした人々」であり、目を向けるべき人であると語ります。さらに教授は、「男は命を懸けて国を守るべき」という国家論理の根底にある家父長制的な社会構造を注視しています。現在、徴兵制のある韓国では、女性たちが「兵役拒否宣言」を行う動きがあり、徴兵制によって軍事化された社会のあり方そのものを根源的に問い直す活動を展開しています。市川教授は兵役拒否をジェンダー視点から捉え直すことは、軍事化を支える社会構造そのものを根本から問い直すことにつながると考えています。

■同調圧力や「無責任の体系」に抗う。当たり前を疑い、行動できる学生を育てる教育

市川教授の研究の根底にあるのは、日本社会に根強い同調圧力や、誰も責任を取らずに過ちが繰り返される「無責任の体系」への学術的な危機感です。過ちを防ぐには、既存のシステムやルールを当たり前とせず、批判的に捉える視点が不可欠です。この理念はゼミ活動にも反映されています。学生たちは、公的補助の乏しい朝鮮学校の現状を知り、相互交流と本の寄贈活動（5年間で約4千冊）を継続。本を寄贈するだけでなく、学生が授業や交流を行う本学独自の教育支援を展開しています。また、従来の防犯対策が被害者を追い詰める構造に着目し、加害者を不可視化させない新たな「痴漢撲滅ポスター」を京都市交通局と連携して制作。自ら考え社会を変える一步を踏み出せる人材を育成しています。（[2025年度 朝鮮学校との交流について](#)）

市川 ひろみ（いちかわ・ひろみ） Profile

<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kyuwuhp/KgApp/k03/resid/S001681>

略歴 1964年生まれ。1991年3月神戸大学大学院法学研究科修了、修士（政治学）、1993年ベルリン・フンボルト大学社会科学部研究科中退、1996年神戸大学大学院法学研究科 博士後期課程単位取得満期退学。今治明德短期大学助教授・准教授・教授を経て、2011年4月より現職。

論文 「ロシアによるウクライナ侵攻後の兵役拒否・徴兵忌避・脱走」（単著/2023年/『議会と自治体』）
「日本における徴兵忌避—国家への異議申し立てとして—」（単著/2022年/『京女法学』）

著書 『国際関係論のアポリアー思考の射程』（他編著/2021年/晃洋書房）
『国際関係のなかの子どもたち』（共著/2015年/晃洋書房）『兵役拒否の思想』（単著/2007年/明石書店）

＜本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先＞

・京都女子大学入試広報課 岡橋・亀井・竹縄
・京都女子大学広報デスク（ラブレ内） 香川・田村
・京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>

TEL：075-531-7054 FAX：075-531-7222
TEL：06-4708-3766 E-mail:pr@raple.co.jp